

研究名：回復期リハビリテーション病棟において、顕著な回復が認められる症例についての探索的研究

研究責任者： リハビリテーション科 職名 医師 氏名 伊藤郁乃

研究の背景・意義・目的：

これまでに脳卒中の機能予後に影響をあたえる因子として、年齢、併存疾患、脳卒中の病型・大きさ、損傷部位、などが先行研究で報告されています。また、脳卒中の回復予後予測は対数曲線に近似していることから、対数曲線法による予後予測法が報告されています。しかし、顕著な日常生活動作能力の回復がみられる症例については、どのような因子が影響しているのか検証されていません。本研究の目的は、特に回復が著しいケースの特徴について調査し、今後の回復期病棟でのリハビリテーションプログラムにいかすことです。どのような症例が特に回復が著しいのかを研究することによって、リハビリテーション医療の質の向上に役立てることが目的です。

研究の方法：

・対象となる患者さん

2015年4月1日～2021年3月30日までの期間に当院回復期リハビリテーション病棟から退院した患者のうち

退院時 FIM-入院時 FIM \geq 70 点を満たす患者さんが対象です

・研究期間

院長の研究実施に関する決定通知発行後から西暦 2027 年 3 月 30 日

・利用する検体、カルテ情報

カルテ情報 診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査）ADL(Barthel Index, Functional Independence Measure) 脳卒中重症度 Modified Rankin Scale 在院日数、神経心理学的検査結果 等

研究組織：

この研究は、当院のみで実施されます。

個人情報の取扱い：

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

研究計画書等の公表：

この研究に関連した各種データについて知りたい場合は、担当医師を通じてその情報の開示を求めることができます。また、ご希望があれば、研究計画書や研究の方法に関する資料の閲覧や、ご提供することも可能です。ただし、他の患者さんの個人情報や研究の知的財産等など、情報の種類によっては開示できないものがあります。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご自身の検体やカルテ情報を当該研究に利用することをご了解できない場合などは、研究対象とはしませんので、研究責任者までお申し出ください。その場合でも皆様に不利益が生じることはございませんのでご安心ください。

<問い合わせ先> 独立行政法人国立病院機構 東京病院

いとういくの

リハビリ科 氏名：伊藤郁乃

住所 東京都清瀬市竹丘 3-1-1 電話：042-491-2111 (代)

独立行政法人国立病院機構 東京病院 院長